

第1章 はじめに

昨今、国内外において魅力ある圏域の形成に向けた都市間競争が激しさを増しています。さらに、そのような傾向は、2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業によって、より一層強まると考えられますが、これをきっかけに国内に新たな大交流が形成されることとなり、それはこの地域にとっても大きなチャンスとなることが期待されます。

本市が名古屋大都市圏の中核都市として、圏域全体の成長をけん引していくためには、まずは大交流の起点となる名古屋駅から多くの人々や企業などを市内に引き込んでいくことができるよう、市内全体でバランスの良いまちづくりを進め、それを発信していく必要があります、その代表格である都心部においても魅力向上をさらに進めることが急務です。

本市の都心部は、名古屋駅地区と栄地区とが大きな2つの中心核を形成しており、本市では、これまで両地区が連携あるいは役割を分担し、それぞれの個性を活かした魅力向上を図るため、都心部のまちづくりに取り組んできました。栄地区においても、特徴である豊かな公共空間や商業、文化、娯楽などの集積、個性的な界隈の存在を十分に活かして、市民や名古屋への来訪者を今以上に惹きつけることができるよう、魅力の向上を図っていくことが必要です。

このような状況を踏まえ、本市ではリニア中央新幹線の開業までの期間を対象に、栄地区のまちづくりを実現するための基本方針となる「栄地区グランドビジョン～さかえ魅力向上方針～」を平成25年6月に策定し、様々な検討を進めてまいりました。

中でも、都心のシンボル空間である久屋大通の再生は、栄のまちづくりにおける主要な要素として大きな役割を果たすものと考えています。

この「久屋大通のあり方」は、今後、久屋大通の再生事業を推進していくために、その基となる久屋大通の将来を見据えたあるべき姿を示すものです。今後、久屋大通が愛着を持って集い憩える場・使いやすい空間となるよう、市民・地域の皆さんと合意形成を図りながら、久屋大通の再生事業を進めてまいります。

1-1 「栄地区グランドビジョン」における久屋大通の位置づけ

市民や栄地区のまちづくりに関係するさまざまな立場の人と目標を共有し、それぞれの役割と相互の協力により取り組みを始めていくためにとりまとめた「栄地区グランドビジョン」においては、「公共空間の再生」「民間再開発の促進」「境界性の充実」の3つの方針に沿ってまちづくりを進めていくこととしています。そのうち、行政が主体的に取り組んでいく「公共空間の再生」において、久屋大通公園の再生については主要な事業の一つと位置づけています。

○「栄地区グランドビジョン」より

公園（久屋大通公園）

■ 久屋大通公園の魅力向上に向けて、都心のシンボル空間として、名古屋を訪れた多くの人々や市民が集まり、憩い、ふれあう、栄地区を象徴する公共空間にふさわしい整備を行います

- ・名古屋大都市圏を代表する観光名所化を図るため、魅力的な集客施設の導入をすすめます。特にテレビ塔エリアについては、テレビ塔と密接に連携した公園・道路の整備・運営に取組み、一層のにぎわいを創出するとともに、良好な景観形成を行い、テレビ塔のシンボル性を強化した空間づくりを行います。
- ・公園本来の機能をしっかり確保しながら、広々とした開放的な広場の整備やイベントなどが実施しやすい基盤整備をすすめます。
- ・整備にあたっては、公園内外の高低差緩和や公園と地下空間との昇降設備の充実など、高齢者や子供連れをはじめとするあらゆる人々が利用しやすいユニバーサルデザインによる公園づくりを行います。

■ 久屋大通公園と沿道とがより一体化するような空間形成を図ります

- ・公園と道路と沿道施設を一体的なにぎわい空間とするため、自動車利用に配慮しつつ、公園の拡幅、沿道からのアクセス箇所の増強、視覚的な開放性を高めることなどにより、公園と沿道との連続性を大幅に向上させます。

■ 久屋大通公園が北から南まで一体的に活用できるような空間形成を図ります

- ・栄バスターミナル（噴水南のりば）エリアは、集客・交流性の高い空間として地下空間とあわせて再整備を行います。また、バスターミナルは、栄中心部において機能を確保した上で公園外への移設に取り組みます。
- ・公園を分断する東西方向の道路は、主要幹線を除き、できる限り廃止するなどして、南北の連続性を大幅に向上させ、周遊できる空間づくりを行います。

■ 広域避難場所としての防災機能強化を図ります

- ・栄地区最大の公共空間として、避難者収容のためのオープンスペースを大きく確保し、沿道や地下などから避難しやすい環境を整え、あわせて被災対応支援のための機能強化を図ります。

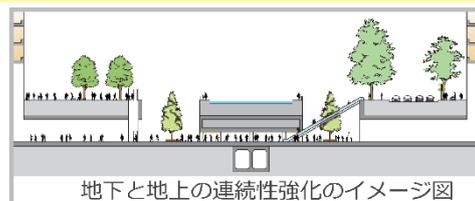
■ 民間の経営感覚を活かして、効率的で質の高い公園整備・管理運営をすすめます

- ・設置管理許可制度や指定管理者制度、PFI制度など、様々な官民連携（PPP）手法を活用することによって、民間事業者の活力やノウハウを導入し、競争原理によってより良いサービスの提供を図ります。

地下空間

■ 地下街や地下鉄駅などと、地上の歩行者空間との連続性を強化します

- ・地下空間と地上との連続性を高めるため、エレベーターやエスカレーターなど昇降機能を集約化した地上と地下をつなぐ拠点をつくるとともに、利用可能時間の延長などにより、地下と地上の移動をしやすくし、新たな人の流れをつくりだします。



エリア別の空間イメージと達成目標



2013年 (平成25年)	前期	中期	後期	2027年 (平成39年)
ビジョン 策定	●公園(久屋大通公園) テレビ塔・北エリア 南エリア			